

- 1 派遣期日 平成28年8月9日（火）
- 2 研修先 学校名（会場名） 神栖市立植松小学校
所在地 茨城県神栖市土合本町 4-9809-2
<http://www.kamisu.ed.jp/uematsu/>

3 研修内容

(1) 神栖市全小中学校の展示物の参観

(2) ポスターセッションの参観

- ① 神栖市立深芝小学校
- ② 神栖市立神栖第二中学校
- ③ 神栖市立神栖第三中学校

(3) パネルディスカッション 「地域を支える人づくり」

パネラー	神栖市立波崎第一中学校	校長	高田	きみ子	氏
	茨城県立波崎高等学校	校長	高橋	幸一	氏
	前神栖市PTA連絡協議会	会長	斎藤	幸治	氏
	(株)鹿島共同施設事務部	部長	豊澤	裕二	氏
	潮来市立潮来第一中学校	校長	箕輪	一廣	氏
モデレーター	神栖市教育委員会教育指導課	課長	木之内	英一	氏

(4) 講演 「アクティブ・ラーニングと未来を担う人材育成」

京都女子大学 教授 井上 一郎先生

4 感想

(1) 神栖市全小中学校の展示物の参観を通して

まず、小学校の取組で非常に参考になったことは、幾つかの学校は児童の発達段階に応じて気持ちや様子等を表す単語の一覧表を作り、それを教科書やノートに貼らしていることである。これによって、児童がノートに自分の考えを書くときにたくさんの言葉を交ぜて書くことができ、結果的に語彙量が増え分かりやすく表現することにつながる。また、グループ活動を行う際の話型を作り、話し合い活動をスムーズに行えるようにもしていた。小学校の低学年からこのようなことを行うことで、中学年・高学年になるに従って話し合い活動が活発にかつ発展的に行えるようになると考えられる。

中学校の取組では、授業を生徒が司会者となって進めていることが非常に興味深かった。話し合い活動でも生徒が司会者となって進めることで、生徒たちの主体的で対話的な活動につながることをねらっている。また、中学校でも司会者の話型を作っている学校が多く、慣れるまでは型にはめることの重要性を改めて感じた。そこから、少しずつ基本を押さえながら発展させていくことが、より深い学びにつながることも実感した。

(2) ポスターセッションの参観を通して

① 神栖市立深芝小学校

学習計画を自分たちで考え、立てていくことで、進んで自分の役割を果たそうとする児童の姿が見られ、意欲的に学習に取り組んだり、予習をしてから学習に取り組んだりする主体的な児童の姿に成長していた。その際、学習計画には児童が考えた課題を載せるようにしたことにより、授業中活発につぶやく児童が目立つようになっていた。

② 神栖市立神栖第二中学校

「神二授業スタンダード」を作り、全教職員が一つのことに取り組んでいることが参考になった。特に、「単元を貫く学習課題を取り入れた、単元シラバスの作成」は生徒にも教師にも見通しがもてるので、本校でも広げていきたい。また、全教科で「課題とまとめの整合性のある板書」を意識していることも、非常に勉強になった。学校全体で縦断的・横断的な取組が、生徒たちの学力を伸ばすことにつながっていた。

③ 神栖市立神栖第三中学校(神栖市学力向上プロジェクトセンター校)

全教科でそれまでの一斉スタイルからグループ活動に授業スタイルの統一を図り、全教職員で3年前から研修を進めてきたことが確実な実績につながっていた。基本的な流れは、「パーソナルワーク→グループワーク→クラスワーク」だが、課題によってスタート位置を変えることは重要で、この流れができる課題を設定することが最も重要なことであった。また、クラス全員が授業のめあてと本時の流れを意識することが、最終的なまとめとスムーズな活動につながることも再認識できた。

(3) 講演 「アクティブ・ラーニングと未来を担う人材育成」

下記は、井上先生の講演の中で、特に参考になった点である。

- ・アクティブ・ラーニングは学習方法論で、カリキュラム・マネジメント全体像の中で取り組むことである。
- ・学習課題の作り方が大切である。
- ・グループ編成は、課題や教科によって変えるなど工夫する必要がある。隣近所で、ずっと同じメンバーグループでは同じ思考系統になるのでダメである。「想像力を妨げるもの」になってしまう。
- ・創造的な人間に共通している視点が、これから最も必要な力になる。
- ・WHOの10のライフスキル(自己認識、共感性、効果的コミュニケーションスキル、対人関係スキル、意志決定スキル、問題解決スキル、創造的思考、批判的思考、感情対処スキル、ストレス対処スキル)は、社会的変化に対する適応能力を高めるのに非常に重要なスキルである。
- ・これからの社会では、自ら課題を作り解決策を見い出す、アイデアに疑問を呈する意欲が重要である。
- ・人にアイデアを発表する力、チャンスに敏感であること、活動を準備・調整する力がこれからの時代には必要とされる。
- ・今後、全てにおいてアクティブ・ラーニングにならないといけないが、それは授業にグループワークを入れればいいだけのものではない。

(4) 全体を通して

最初に必要となってくることは、良好な人間関係であり、それを構築するには意図的で計画的な特別活動を推進することである。まず、学校としてそのことに最初に取り組み、次に「地域を支える人づくり」という使命感をもって我々が主体的に対話的、深い学びにつながる学習を展開することが必要となってくる。教師が真剣に30年後の日本の将来と目の前の生徒のこれからの人生を考えなければ、急激で予想不可能な変化をとげる我が国で目の前の生徒たちは生活していくことは困難になる。我々の責任は大きい分、やりがいがあり、改めて教師という職業は人工知能ではなく人間の仕事であると痛感した。